

茂木大臣ぶら下がりの概要

日時：5月25日（土）22：01～22：10 場所：中央合同庁舎8号館1階ロビー

（茂木大臣）

今日午後7時からになりますが、約2時間半、ライトハイザー通商代表とですね、日米貿易に関する協議を行ったところであります。今週21日に、事務レベルで協議を行いまして、日米双方の立場について確認したところでありますが、それを踏まえて、議論を進めるべく率直な意見交換ができたと考えております。また双方の立場であったり、考え方に対する理解、これはさらに深まったと考えております。現段階ではもちろんですね、それぞれの立場と、これが完全に一致しているということではありませんが、そのギャップを埋めていくと。そのためにですね、実務者協議の可能性も含めてですね、さらにお互い努力していくということで、ライトハイザー通商代表との間で一致をしたところであります。

（記者）

関税に関する関心点としては、日本側としては自動車、アメリカ側としては農産品に対する関心が大きいと思うんですが、この点今日はどのようなお話がありましたでしょうか。

（茂木大臣）

先ほど申し上げたように、幅広い分野について、率直な意見交換を行うことができた、そして、双方の立場、また考え方についても理解が深まったと思っております。いろんな議論をさせていただきます。

（記者）

27日に首脳会談があるわけですが、そこで何か日米の間で具体的な成果として出せるものというのは、今回想定されているのでしょうか。

（茂木大臣）

お互い早期に合意を得るべく努力をしているということでお互い一致をしているところでありますが、現段階で、完全な一致ということはありませんので、なかなか27日の段階で合意、一部について合意すると、こういうことにはならないんだと思っております。

（記者）

今日の会談を踏まえて、首脳会談での何かしらの発表はないということでしょうか。

（茂木大臣）

私は首脳ではありませんのでわかりませんが、少なくとも今日の協議を通じて、何か27日の段階で合意をするということにはならないんじゃないかなと思っております。内容についてです、プロセスについてではなく。

（記者）

今後の協議の進め方についてですが、先ほど実務者協議の可能性も追求しながらとおっしゃっていましたが、現時点で、日米間で合意されている進め方といいますか、来月以降どういった進め方をされるのかというお話はありましたでしょうか。

（茂木大臣）

今、申し上げたとおりです。その実務者協議の可能性も含めて、やり方も含めて今後協議をしていくということになるかと思えます。

(記者)

その実務者協議というのは回数を増やしていくというイメージということでしょうか。

(茂木大臣)

そういうことではないんですが、こういったフレームでやるかとか、そういったことも含めてよく検討した上で、その可能性も探っていきたいということです。

(記者)

先般トランプ政権の方で、自動車について、輸入車が米国の安全保障上の脅威であるという発表がなされましたけれども、その件についての意見は今回あったのでしょうか。

(茂木大臣)

ありません。

(記者)

それは大臣の方からも特段なにも申し上げていないということでしょうか。

(茂木大臣)

私からも申し上げておりませんし、向こうからもそういった話は出ておりません。そしてこの問題につきましては、先日記者会見でも申し上げたとおりです。

(記者)

先ほど、実務者協議で進めていく可能性があるとのことのお話がありましたが、大臣同士、閣僚間での進め方については、次回の協議スケジュールなど何か決まっているのでしょうか。

(茂木大臣)

決まっていますが、当然閣僚間でも協議をする必要があると。つまり閣僚間でお互いの立場が完全に一致しているわけではありませんが、お互いの立場であるとか考え方に対する理解が深まったと。そして、そのギャップを埋めていこうということで、それはなかなか実務者レベルで全てできるというわけではありませんから、当然、大臣間での議論を並行的に行う必要がある。これは確認しなくても、お互いの当然の理解であります。

(記者)

日にちとか大体いつ頃か話はしていますか。

(茂木大臣)

していません。

(記者)

合意の時期の大体の目途という様な話があったのかということと自動車の数量規制、為替問題、農産物のTPP以上の要求というのはなかったでしょうかという2点お願いします。

(茂木大臣)

1点目についてはありませんでした。2点目、3つ言われてました点につきましては、今日は全く話が出ていません。

(記者)

先ほどの自動車に関連して、17日に232条に関して大統領が発表された内容では、ライトハイザー代表がやられる交渉については、基本的には安全保障上の脅威というものを何らかは正

する目的をもとにやられるというのがアメリカ側の立場かと思いますが、先ほどの大臣がおっしゃった趣旨は明示的に国家安全保障上脅威云々という話は出なかったということでしょうか。

(茂木大臣)

明示的にも暗黙的にも出ていません。

(記者)

冒頭大臣おっしゃられましたラストベルトの再び活性化するというのが自分の願い、シンボルなんだと発言最初されたかと思いますが、あの時の大臣のご意図を聞かせていただけますか。

(茂木大臣)

大体ですね、こういった冒頭のはジョークを含めて、ユーモアを含めて話をするものですから、私、ピッツバーグ・スティーラーズが好きですけども、ユニフォームが飾ってありますから、そういう話をしたわけでございます。

(記者)

27日の日米首脳会談の前にもう一度会うことはありますか。

(茂木大臣)

想定しておりません。

(記者)

今回初めて、事務レベル協議を経て、閣僚級協議という形ですけれども、21日の事務レベル協議を経たことで、より一層前に進むことになったという認識でよろしいでしょうか。

(茂木大臣)

少なくともお互いの立場がどうであるかという事については色々な意味で正確な確認ができたところもありますので、それを踏まえての議論ができたと思っております。

(記者)

今回の週明けの日米首脳会談に続いて、6月にも首脳会談が調整されていると思いますが、それを念頭に置いた様なやり取りというのはあったのでしょうか。

(茂木大臣)

ありません。

(記者)

選挙日程に関しては。

(茂木大臣)

ありません

(記者)

先ほどお互いのギャップを埋めていこうというお話をされていましたが、ギャップというのはそれぞれの様な部分になりますか。

(茂木大臣)

それは交渉ですから、交渉の途中の過程において今どんな状況であるかについてはコメントは控えたいと思います。

(記者)

先だっの事務レベル協議では、自動車の内容をTPP並みに開けてくれないと、農産品が無条件でTPPレベルを提供するわけではないという主張を事務方でやっていたと思いますが、大臣からも同様のことをおっしゃられたのでしょうか。

(茂木大臣)

今の回答と同じです。つまり交渉の途中で、当事者ですので交渉のプロセスにおいて、途中でこうであるという事については、コメントを控えたいと思います。

(記者)

率直に、ギャップというのはどのくらい大きいとの認識でしょうか。

(茂木大臣)

考え方じゃないでしょうか。

(以上)